一、町人等可立置事。
一、日切八月十日以前相究事。

(天正八年)七月十七日　朱(織田信長)印

敬白起請

右意趣者、今度光壽(教如)赦免事、其方於異儀(無脫カ)者、條數之通聊以不可有相違。若此旨於僞者、(以下牛王裏書)梵天帝釋四大天王、惣日本國中大小神祇、八幡大菩薩・春日大明神・天滿大自在天神・愛宕・白山權現、殊氏神可蒙御罸候也。仍起請如件。

天正八年七月十七日　(織田)信長　在判血判

本願寺新門主

(次いで信長が教如と和議の成立したるは七月廿四日、大坂御堂を受取りたるは廿八日に在りて、加賀返付のことは遂に實行せられざりしなり。)

八月三日。本願寺顯如、加州四郡等に、教如の大坂を開城したる次第を報ず。　一六七五

【本願寺文書】山城

急度染筆候。仍大坂之儀、徒者之所行として企天下之表裏、不成立事ゆへ、家中之恥辱不過之候。隨而大坂昨日二日令退城候。言語道斷、比興之仕立不及是非候。就中其國之儀、寂前已來如申下候、信長公へ令懇望、嚴重之子細在之條、万端此方より如申付、可致其心得事肝要候。憖弓箭之行可相止候。幾重も以道理之上可申達候。次寺内織部・井上善五郎二人事罷下、狼藉之働前代未聞曲事次第候間、速可令成敗事、可爲忠節候。當庄之儀彌粉骨頼入候。猶刑部法(下間頼廉)眼可令演說候。——

(天正八年)八月三日　(顯如)

加州四郡中
鈴木出羽守どのへ
山内惣庄中

(右は案文なり。末文當庄之儀彌粉骨頼入候とあるは、鈴木等を宛所とせし場合にのみ限るべし。又八月二日大坂を退去したりといふは教如のことに係る。)

八月廿三日。菅屋長頼、羽咋郡氣多社に、その社務領を安堵せしむ。　一六七六

【氣多神社文書】羽咋郡

羽喰郡之儀、土肥但馬守(親眞)知行付而、一宮氣多社修造分、社務分目所々之免田當知行分、但馬方雖被相落、拙者相理之條、如前々不可有相違候。猶以可得上儀間者、一切借物等不可有其沙汰者也。仍如件。

天正八
八月廿三日　菅屋九右衛門尉
長頼　在判

一宮惣中

八月。柴田勝家、江沼郡山中湯に制札を與ふ。　一六七七

【遺編類纂】

禁制　山中湯

一、當手軍勢甲乙人亂妨狼藉之事。
一、陣取之事。
一、放火之事。
一、伐採竹木事。

右堅令停止畢。若於違犯輩者、速可處嚴科者也。仍下知如件。

天正八年八月　日　修理亮(柴田勝家)　在判

九月朔日。織田信長、長連龍に、鹿島半郡を領知せしむ。　一六七八

【長文書】金澤

追而絹五疋到來、懇志悅入候。

知行方事、最前七尾(溫井景隆等)与入魂分、鹿島半郡可領知之。重而以自餘可申付之條、先此分可然候。七尾使者爰元有之候間、右之通申聞候。次居城之儀、福光(福水)に有之尤候。猶菅屋九右衛門尉(長頼)可申候也。

(天正八年)九月一日　(織田)信長　在印

長九郎左衛門尉(連龍)殿

十月四日。溫井景隆、鳳至郡西光寺に、同寺看坊職の田地を安堵せしむ。　一六七九

【西光寺文書】鳳至郡